

第10号発行
記念インタビュー

望月将悟

(井川)

植田 徹

(川根)



井川と川根をつなぐ

いかわね新聞

No.10

いかわねの星 地域の未来を語る

全国にその名を馳せる山岳ランナーの望月将悟さんは、言わずと知れた井川の星。2016年、南アルプスが縁で知り合ったのが、植田徹さん。将悟さんとの出会いも後押しとなり、今年4月に川根本町へ移住したばかりの「川根の新星」です。いかわね新聞の発行第10号を記念し、お2人に地域の魅力や未来について語っていただきました。

南アルプスで出会い、築いた信頼

望月 植田くんとは、2年くらい前に樫島（静岡県下田市）で会ったのが最初ですね。見たことのないバッグを使っていて気になって声をかけました。そしたら自分で作っていると。僕も自分に合ったバッグが欲しかったので、オーダーしました。

植田 将悟さんはずっと憧れの存在でした。「こんなバックバックを作ってくれないかな。」と言われて、それは嬉しかったです。寝る間も惜しんで夢中で作りましたね。製作期間は1か月もなかったと思います。

望月 6月に出会って、8月には植田くんのバックパックを背負ってレースに出ました。南アルプスを愛し活動する仲間だし、信頼しているからこそ頼めたんです。

地域への想いがつながる

望月 僕は井川の自然に囲まれて育ち

ましたが、子どものころは南アルプスとか山登りとかを意識したことはなかったですね。山というのは林業だったり、シイタケを育てたりする仕事の場だと思っていました。

レースは、二十歳の頃に国体の山岳競技に出たのがきっかけです。今は国内外のレースに選手として出場したり、大会の企画や運営をしたりすることもできます。レースを通じて山を知ることでもできます。山岳救助の仕事にも役立っています。トレイルラン（山岳レース）という競技はとて過酷だけど、自分の限界にチャレンジし、乗り越える楽しさがあります。しかも相手は自然。だからこそ学ぶことも多いんですよ。

でも、トレイルランはあくまで「人を呼ぶための手段。ただレースができればいいんじゃないかって、地元の人と一緒に地域を盛り上げたいという想いです。地域と一体となっている大会にはファンやリピーターも多いですよ。

植田 僕は10年くらい前から南アルプス





望月将悟さん

植田 僕はまだ夢を追いかけている途中ですが、「ものづくりで人を喜ばせたい」という夢をここで叶えたいですね。工房は自分の活動拠点でもあり、山を愛する人たちが集まって交流できる場になれば面白いと思います。

いかわねの未来と二人の夢

望月 植田くんが川根に来たことはすごく大きいですね。若い人がチャレンジしたり自己実現できる場所であってほしいし、そういう人が増えれば、新しい「いかわね地域」になっていくんじゃないかな？子どもたちにも夢を与えられると思います。地元でこういう仕事ができるんだ、こういう生き方があるんだってね。

で山登りや釣りを始めました。山が大きいこと、アクセスが不便で出入りする人も少ないこと、沢もたくさんあるし…。南アルプスの魅力を全部知るには一生かかっても足りないくらいで、僕にとっては最高の遊び場なんです。なので、僕にとっては最高の遊び場なんです。なので、南アルプスの玄関口でもあるこの地域に工房を構えたことは、とても自然な流れでした。やはり、将悟さんや南アルプスで出会ったいろんな人たちの影響は大きいですね。仕事を辞めて開業することに不安もありましたが、将悟さんに話したらとても喜んでくれましたよ。

井川 植田くんの作ったバッグを地域の人もって知ってもらいたいですね。実際に井川では山作業

僕も40代になって、自分の立ち位置というか、今後を考えるようになりました。まだ「夢」とはつきり言えるほどのものはないんですけど、いずれば故郷・井川に戻りたいと思います。

望月 僕は井川が故郷だし、川根にも山を通じて出会った知り合いがたくさんいます。でも若い世代の人はどうなんだろう？井川と川根の人たちがもつと行き来できるようになればいいですね。やはり川根は観光地だし、若い人が起業したりして、井川出身の僕からしたら羨ましい面もあるんですよ。植田くんの新しいチャレンジもすごく刺激になります。



植田徹さん



望月将悟(もちつきしょうご)1977年生まれ、静岡市井川出身。静岡市消防局勤務。トランスジャパンアルプスレース(総距離415km、日本海から太平洋へ日本アルプスを縦断する山岳レース)で4連覇中。



植田徹(うへだとる)1988年生まれ、藤枝市出身。前職は小学校教員。今年4月から川根本町千頭に拠点を移し、「ブルーバード バックパック」をオープン。バックパック(ザック)などのアウトドア道具をオーダーメイドで製作・販売。

榛原郡吉田町出身。平成3年に川根本町へ移住。標高600mにある平野地区で、パートナーと羊とともに暮らす。生態系のバランスを壊さない自給自足の暮らしや、身土不二を基本にするマクロビオティックに取り組んでいる。(一社)エコティかわね理事。



柳原由実子さん(川根)

ねに限らず全国のエコパークに登録された市町の人々が共に学び、繋がることができると思います。

井川と川根は同じ大井川流域。もつと繋がっていききたいですね。両地域がこれから過疎化していく中、地元の人や移住者、それに町内外に関わらずやる気のある若い人たちと、皆でこれからの生き方を考え持続可能な社会を目指したいです。エコパークの定義には「人間と自然の共生を目指すためにモデルとして登録された地域」とあり、まさにこれだと思いました。今年3月には同じエコパークに登録された宮崎県綾町からゲストを招き、自然生態系農業等の考え方を学びました。いかわねに限らず全国のエコパークに登録された市町の人々が共に学び、繋がることができると思います。

いかわねへの想い

縁あっていかわねに暮らし始めた人は、それぞれにいかわねに思い入れを持ち、これからの地域のあり方や理想の暮らしを思い描いていることでしょう。活躍が期待されるいかわねの2人の女性に、インタビューをしました。



青木美樹さん(井川)

「ビジターセンターは観光客向けの施設」というイメージが強いのですが、今後は観光客向けだけではなく、地元の人や移住者、それに町内外に関わらずやる気のある若い人たちと、皆でこれからの生き方を考え持続可能な社会を目指したいです。エコパークの定義には「人間と自然の共生を目指すためにモデルとして登録された地域」とあり、まさにこれだと思いました。今年3月には同じエコパークに登録された宮崎県綾町からゲストを招き、自然生態系農業等の考え方を学びました。いかわねに限らず全国のエコパークに登録された市町の人々が共に学び、繋がることができると思います。

8年前前からパンの移動販売で井川へ通う。プライベートでも井川の行事などに参加し、今年4月に井川へ移住。南アルプスユネスコエコパーク井川ビジターセンター内のレストランやエコツーリズムをメインに活動中。

山里の暮らしに魅力を感じ、今後の人生を井川で楽しもうと移住しました。4月からは、ビジターセンター内のレストランでも働き始めたところですよ。

自然を学ぶ
(緩衝地域)

自然を守る
(核心地域)



自然と暮らす
(移行地域)

私たちが暮らす/

南アルプス ユネスコエコパーク

南アルプスとその麓の地域がユネスコエコパークに登録されてから4年が経ちました。“ユネスコエコパークって、高い山だけの話？”いいえ、いかわねの人々が暮らす場所も、立派なユネスコエコパークなのです。

ユネスコエコパークは、3つの地域区分で成り立っています。大切な自然や、固有の動植物を守っていく「核心地域」、自然の中で楽しんだり、自然について調べたりする「緩衝地域」、自然の恵みを受けて人々が暮らす「移行地域」の3つです。日常の風景だと思っていることも、大事なユネスコエコパークを構成するもののひとつ。受け継がれてきたいかわねの歴史や文化、暮らしは、世界に誇れる価値あるものなのです。



高山植物保護セミナーに参加する高校生

緩衝地域

緩衝地域は調査研究、教育、観光の場として活用されています。自然環境の保全と適切な利用への理解を深めるため、防鹿柵の設置や植生調査、高山植物保護セミナー、エコツアーなど様々な取り組みが行われています。



核心地域

川根本町にある南アルプス最南端の2,500m峰・光岳。ハイマツの分布の世界的南限にあたります。エコパークへの登録のほか、屋久島などと同じく、本州では唯一の原生自然環境保全地域にも指定されています。



食 井川小中学校では、お茶以外にも在来野菜や雑穀を育てています。地域を学ぶ総合学習の時間では、自分たちで育てた作物を使って、雑穀クッキーを作ったり在来野菜ピザを作ったりしています。井川を元気にしたいという思いから、商品化を目指して研究中です。

神楽は、古く**伝**統から井川や川根で、集落ごとに舞い継がれてきました。神楽は神に捧げるものであると同時に、人々の娯楽でもありました。現在も、厄払いや五穀豊穡を願い、お祭り等で披露されています。写真は、井川での昭和の頃のお祭りの風景です。



移行地域



農 川根と言ったらお茶。その始まりは室町時代以前と考えられています。年に一度の茶摘みには、地元のベテランさんたちがそれぞれの農家を行脚し、熟練の技で次々にお茶を摘んでいきます。歴史と経験、地域の輪によって受け継がれてきた川根茶をぜひご賞味ください。

井川線はもと**鉄**道をもと水力発電所建設用物資を運搬するための鉄道でした。地元では「エンジン」と呼ばれ親しまれています。平成3年まで道路が通ってなかった川根本町土本地区の人にとっては重要な交通の足でもありました。現在は観光列車として、川根と井川を結ぶ大きな役割を果たしています。



ロゴマーク使って下さい！！

ライチョウをシンボルにした、可愛いロゴマーク。このロゴマークは、南アルプスユネスコエコパーク地域に住んでいる方や事業所がある企業のほか、趣旨にご賛同いただける方にも、ポスターや商品のパッケージなどに使っていただけます。

<問合せ先>

静岡市環境創造課 TEL054-221-1357
川根本町観光商工課 TEL0547-58-7077



南アルプスユネスコエコパークをもっと知りたい方はこちらへ！



※山梨県、長野県にも情報発信施設があります。QRコードを読み取って詳細をチェック！

情報発信施設

- 資料館やまびこ
- フォーレなかかわね茶茗館
- 長島ダムふれあい館
- 南アルプス山岳図書館
- 南アルプスユネスコエコパーク井川自然の家
- 南アルプスユネスコエコパーク井川ビジターセンター

2018
7月~

いかわねの イベントカレンダー

7月	7日(土)	かわね	南アルプス寸又峡口山開き
	14日(土)	かわね	平谷の流したい(湖平地区)
	16日(月・祝)	いかわ	南アルプス山開き
	21日(土)	いかわ	リバウェル井川夏スキーOPEN
	21日(土)~22日(日)	いかわ	リバウェル井川ヤナギランまつり
8月	12日(日)	いかわ	リバウェル井川大流しそうめん
	15日(水)	いかわ	井川夏祭り
	15日(水)	かわね	徳山の盆踊
	16日(木)	かわね	百八たい(下長尾地区)
	18日(土)	いかわ	井川で賑作りとうまいもの満喫(南アルプス井川オートキャンプ場)
	26日(日)	いかわ	二十六夜祭
10月	7日(日)	いかわ	リバウェル井川なめこ収穫体験
	7日(日)	かわね	徳山神楽
	13日(土)	かわね	梅津神楽(接唱映)
	15日(月)~29日(月)	かわね	寸又峡 和紙のあかり展
	20日(土)	かわね	敬満大井神社 大祭(千頭)
	27日(土)	かわね	奥大井もみじ祭(寸又峡)
	28日(日)	いかわ	井川大仏例祭・井川湖渡船祭り
11月	3日(土・祝)	いかわ	井川ダム祭り
	4日(日)	かわね	川根本町産業文化祭(上長尾)
	10日(土)	かわね	奥大井ふるさと祭り(千頭)
	11日(日)	いかわ	井川もみじマラソン大会

※予定は変更される場合があります。
 詳しくは下記までお気軽にお問合せください。

井川観光協会 ☎ 054-260-2377

川根本町まちづくり観光協会 ☎ 0547-59-2746



日本百名山にも数えられる南アルプス・光岳(標高2592m)は川根本町が誇る宝! 来年夏に光岳に登ることを目指し

第1回は5月19、20

が始まりました。山々を登って、体力や知識を身に着けるプログラム

南アルプス・光岳を目指そう! 川根本町トレーニンング登山

日に「新緑の蕎麦粒山・三ツ合編」と題して、1日目にトレッキング、2日目に光岳についての講座を行いました。

南アルプスを専門エリアに活動する登山ガイドの唐橋佳代子さんと、川根本町の山に詳しいエコティかわねの松本匠さんの2名でご案内。参加者の皆さんも健脚で、来年の光岳を目指していいスタートを切りました! 2回目以降、少しずつ難易度が高くなりますが、川根本町の四

今後のスケジュール

2018年

9月8日(土) 朝日岳(1,826m)

11月17日(土) 沢口山(1,425m)~天水(1,521m)

2019年

2月16日(土) 七ツ峰(1,533m)

5月25日(土) 前黒法師岳(1,943m)

26日(日) 光岳講座(座学)



【問い合わせ】エコティかわね
 TEL:05447(58)70000

季折々の山の魅力を堪能しながら、トレッキングを積んでいきます。2回目以降からの参加も可能です。一緒に光岳を目指しませんか?

いかわ

井川湖渡船

涼しい湖上から、ゆったり南アルプスを眺めてみませんか? 井川湖渡船は、井川ダム~井川本村間を無料で運航しています。また、今年から井川ダム~宮向(自然の家側の乗降場)を結ぶ航路が新たに加わりました。新航路は団体での利用のみとなるため、井川支所(054-260-2211)まで事前にご連絡ください。井川本村周辺を回る遊覧コースもありますよ。航路・運航状況はHPからご確認ください。
http://www.city.shizuoka.jp/032_000005.html
 文 上治祐佳子

かわね

なかかわね三ツ星天文台

川根本町は、平成6年に現在の環境省が実施した調査「全国星空継続観察」で、全国で2番目に澄んだ星空が眺められる場所に選ばれました。それをきっかけに、平成13年に三ツ星天文台が建設されました。毎週金、土、日曜日の天候の良い日に開館し、天文台スタッフが解説を行い、観望を楽しむことができます。普段見ている夜空と望遠鏡を覗いて見る星との違いに、感動すること間違いなし!

文 土屋正成

ここ知ってる?

おすすめスポット